

2017年2月20日掲載

かみ合わせの発育と矯正治療

早期発見で心身健康に

乳歯が生え始めてから十数年たつと永久歯のかみ合わせが完成します。この間に歯のかみ合わせの不正が生じた場合は通常、次のように二期に分けた矯正治療を行います。

初期の治療（早期治療、一期治療）は3歳から12歳頃までの永久歯のかみ合わせ完成前に、良なかみ合わせが形成されるように誘導する咬合（こうごう）育成の治療を行います。この時期は旺盛な成長発育があるので、比較的単純な装置で歯の位置や顎骨の位置関係の改善を行うことができます。

本格的な治療（二期治療）は永久歯のかみ合わせがほぼ完成し（14歳頃）、大きな成長発育の時期が過ぎてから精密に歯を動かして、良いかみ合わせを形成するために固定式の留め具（マルチブラケット装置）を用いて矯正治療を行います。

近年のお子さんには凸凹な歯並びやかみ合わせの悪さが目立つようです。不正なかみ合わせは咀嚼（そしゃく）器官の発育を妨げるばかりではなく、全身の健康にも悪影響を及ぼし、心理的なコンプレックスを招くこともあります。矯正治療は不正なかみ合わせをきれいな歯並び、良いかみ合わせにして、健康な体と心をつくるための治療です。むし歯、歯周病と同様に歯並びに関しても早期発見、早期治療が大切です。